2026年11月2日

各　　位

会 社 名　亀田製菓株式会社
代表者名　代 表 取 締 役 社 長　髙木政紀
（コード番号　2220　東証プライム）
問合せ先　専　務　取　締　役　小林　章
（TEL　025-382-2111）

通期業績予想の修正に関するお知らせ

2026年5月13日に公表いたしました2027年3月期通期の連結業績予想の修正について、下記のとおりお知らせいたします。

記

１．2027年3月期通期連結業績予想の修正（2026年4月1日～2027年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円　銭
前回発表予想（A）	143,000	8,300	7,700	4,300	67.99
今回修正予想（B）	142,000	5,500	5,100	2,500	39.53
増減額（B－A）	△1,000	△2,800	△2,600	△1,800	
増減率（%）	△0.7	△33.7	△33.8	△41.9	
（ご参考）前期実績（2026年3月期）	138,052	7,528	7,501	24,647	389.69

２．修正の理由

国内米菓事業においては、市況は底堅く推移しているものの、中東情勢に端を発した原材料・エネルギー価格の高騰が継続しております。2026年10月より重点ブランドを中心とした価格改定を実施し収益性の改善に取り組んでおりますが、足元では価格改定に伴う数量の減少が見られており、本格的な改定効果の発現は第4四半期以降を見込んでおります。

海外事業においては、TH FOODS, INC.において中長期的な成長基盤の強化を進める中、一部工程において人員流動化が想定を上回り生産効率が低下したことから、商品の供給能力が制約を受ける状況となりました。その背景には、夏の気温上昇に伴う労働環境の悪化や周辺企業での賃金上昇等による採用・定着環境の変化があります。また、限られた生産能力の中で、販売構成に変化が生じたことも、収益性に一定の影響を与えました。現在、生産体制の安定化および供給能力の回復に向けて賃金水準の見直し、採用活動の強化、人材育成に加え、生産ライン全体の効率向上施策を並行して実行しております。その効果は第4四半期以降に段階的に発現することを見込んでおります。今回は生産効率の低下および追加コストの発生により、TH FOODS, INC.の収益が悪化する結果となりました。一方で、商品に対する需要は引き続き堅調に推移しているものの、供給能力の制約により販売機会の逸失が発生しております。今回の影響は主として供給能力の制約によるものと認識しており、今後は供給能力の回復を最優先課題

として取り組み、成長軌道への復帰を目指してまいります。なお、アジア地域の子会社各社は概ね計画通りに推移しております。

食品事業においては、長期保存食が堅調に推移していることに加え、機能性素材も好調を維持しており、営業利益は計画を上回って推移しております。

以上の状況を踏まえ、2027 年 3 月期通期連結業績予想における売上および各利益の予想値を修正いたします。

３．配当予想について

今回の業績予想修正に伴う配当予想の修正はございません。

（注）本資料に記載されている業績予想につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以　上